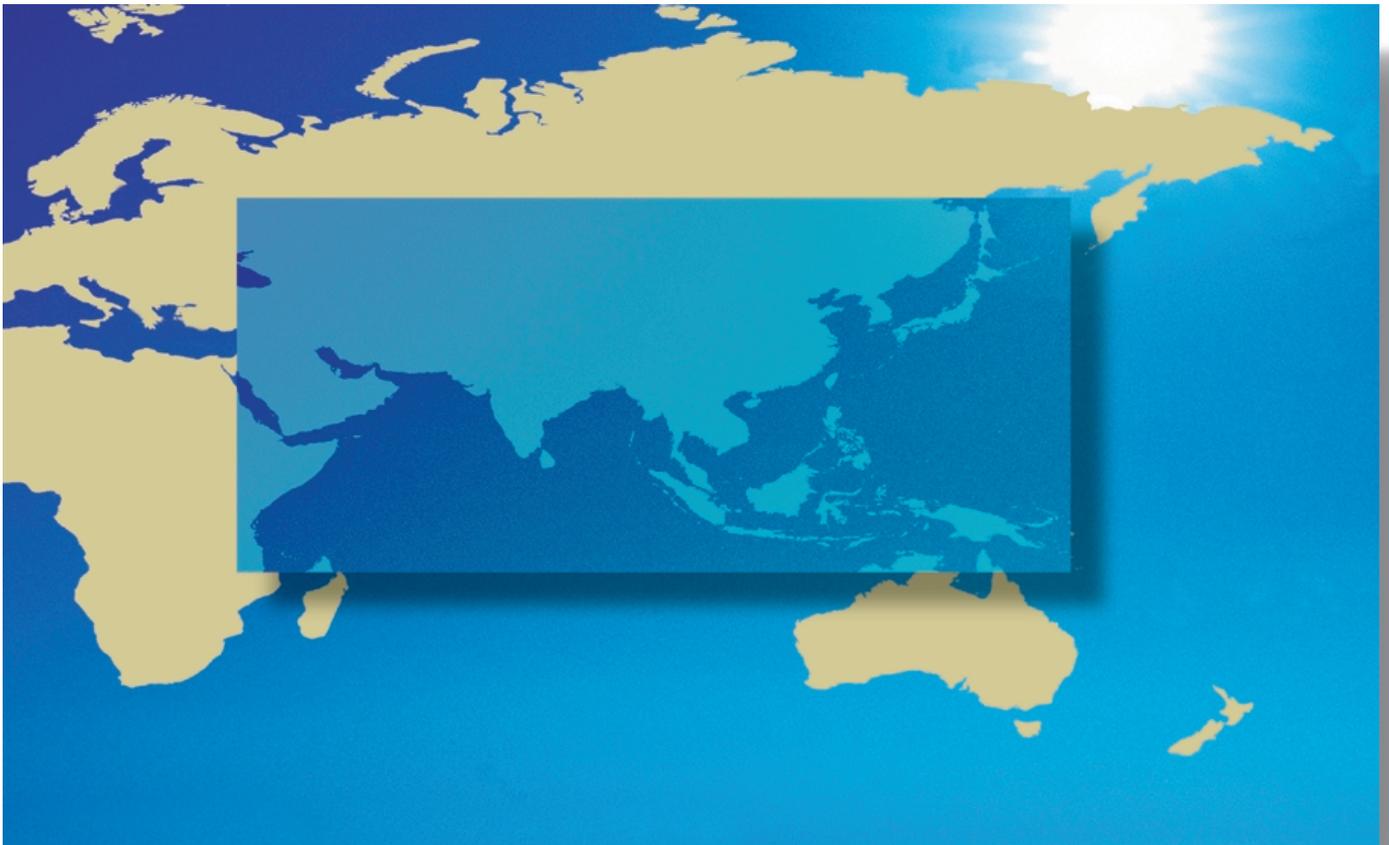


海洋安全保障情報月報

2009年4月号



目次

2009年4月の主要事象

1. 情報要約

- 1.1 治安
- 1.2 軍事
- 1.3 外交・国際関係
- 1.4 海運・資源・環境・その他

2. 情報分析

2009年第1四半期IMB報告書とソマリア海賊事案の特徴

本月報は、公表された情報を執筆者が分析・評価し要約・作成したものであり、情報源を括弧書きで表記すると共にインターネットによるリンク先を掲載した。

発行者：秋山昌廣

執筆者：秋元一峰、犬塚 勤、今泉武久、上野英詞、國見昌宏、小谷哲男、友森武久、毛利亜樹、
高田祐子

本書の無断掲載、複写、複製を禁じます。

2009年4月の主要事象

治安：4月も、ソマリアの海賊活動は活発であった。また、その活動海域も次第にインド洋に南下し、ソマリア沿岸から遠く離れた海域での襲撃事案が増えてきている。2009年のソマリアの海賊事案の特徴については、国際海事局（IMB）の2009年第1四半期報告書を中心に、分析で取り上げた。

4月に入って、日本に加えて、韓国と、シンガポールが新たに海賊対処活動を開始した。また、中国の第2次派遣艦隊も、アデン湾に到着し、任務を開始した。一方、各国海軍の活動に伴って、拘束される海賊容疑者の数も増え、時には射殺される場合もある。拘束された海賊容疑者は、証拠不十分で釈放されるか、あるいは起訴のためにケニアに引き渡されている。まれに拘束した国に送られ、起訴されることもある。

4月の注目すべき事象は、米国籍船が初めて海賊に襲撃されたことであった。米国籍船のコンテナ船、MV *Maersk Alabama* が8日、アデン湾南方の海域で海賊に襲撃され、一時占拠された。該船の乗組員は20人の米国人で、海賊は、船長を該船の救命ボートに拉致し、人質とした。米海軍特殊部隊、SEALの狙撃班は12日夕、船長の救出作戦を実行し、船長を救出すると共に、海賊3人を射殺した。この作戦は、オバマ大統領の決定を受け、また船長の生命に危険が迫っているとの判断の下に実施された。

また、フランスも、人質を武力で解放した。フランスの大統領府は10日、フランス軍がソマリア沖でハイジャックされたヨット、Tanitの人質を解放した、と発表した。この作戦で、海賊2人が殺され、3人が拘束された。ヨットのオーナーも死亡した。

軍事：ロシアの武器輸出公社によれば、2001年以来のロ中軍事技術協力は総額160億米ドルに達した。しかし、近年、ロシアの中国に対する武器輸出は減少している。もっとも、金額から見れば、対中輸出は年平均10億米ドルを超えている。他方で、ロ中軍事協力は、中国がロシアの軍事技術を自国産のコピー装備の生産に利用することに対するロシアの懸念から、かげりが出てきている。

中国海軍は、創設60周年を迎えた23日、山東省青島沖で初の国際観艦式を実施した。観艦式には、14カ国から21隻の艦艇が参加した。胡錦濤国家主席は、誘導ミサイル駆逐艦、「石家荘」から観閲した。中国海軍は、原子力潜水艦や最新鋭の水上艦などが参加した。

韓国政府は27日、済州島の新戦略海軍基地建設計画を承認した。5カ年の建設計画は、環境調査などを経て、2009年12月に始まる。新基地は、最新の商業港としても利用可能で、15万トン級の客船2隻が停泊可能となる。海軍艦艇は約20隻が停泊可能で、2015年に編成予定の海軍「戦略機動艦隊」の母港となる。

外交・国際関係：ケニアは3日、ソマリアとの間で海洋境界に関する了解覚書に調印した。ケニアは、国連大陸棚限界委員会に対する大陸棚外側限界の延長申請に先立って、タンザニアとソマリアとの間で海洋境界に関する合意が必要であった。ケニア外相によれば、タンザニアとの間でも同様の覚書について交渉中である。

フィリピンは8日、国連大陸棚限界委員会に対して、ルソン島東側のフィリピン海のベンハム海盆（Benham Rise）について、大陸棚外側限界の延長申請を行った。今回の申請は“partial submission”と題されており、境界を巡る係争がないベンハム海盆について部分申請することで、フィリピンは、

カラヤン諸島とスカーバラ礁について関係国と境界問題を解決する時間を確保した。

海運・資源・環境・その他：バングラデシュは 12 日、同国の増大する対外貿易に対処すると共に、域内における物流のバブ機能を強化するために、深水港を建設することを明らかにした。計画によれば、チッタゴン港の近くに 2055 年までに 3 段階計画で、12 億米ドルを投下して深水港を建設する。深水港が建設されれば、ネパール、ブータン、中国南部、ミャンマー及びインド北東内陸部への地域的な物流ハブとしても期待される。

パナマ運河庁 (ACP) によれば、2009 年度第 2 四半期の通峡隻数は、前年度同期に比して 1.4%減の 3,914 隻であった。他方、待機時間を含め通峡に要する平均時間、Canal Waters Time (CWT) は、前年度同期の 36.39 時間から 27.9%減の 26.22 時間に大幅に短縮された。

フィリピン政府は 20 日、アデン湾通航船舶への自国船員の派遣を禁止した。アロヨ大統領は、この禁止令を厳格に履行するために、政府関係部局、船員派遣会社及び船主間で緊密な協議をするよう指示した。しかし、フィリピン海員連合組合は、職を失うことを懸念して、禁止令の履行は技術的に不可能であり、ばかげた措置である、と主張している。

1. 情報要約

1.1 治安

4月1日「ギリシャ海軍、海賊容疑者を拘束、その釈放」(Fairplay Daily News, April 1, 2009)

ギリシャ海軍によれば、ソマリアの海賊は1日、アデン湾でノルウェー籍船のLPGタンカー、MT *Sigloo Tor* (1万4,489DWT)に発砲したが、該船からの放水を浴び、襲撃を断念して、逃亡した。そのすぐ後、同じ海域でギリシャ海軍のフリゲートから発進した特殊部隊が高速ボート1隻を拿捕し、5人のソマリア人を拘束した。ギリシャ海軍は、タンカー襲撃と結びつける証拠がないとして、この5人を釈放した。ギリシャ海軍は、彼らが逮捕を免れるために、持っていた武器を海中に投棄したようだ、と語った。

4月2日「セシェル、群島の外側に治安部隊を配備」(Reuters, April 2, 2009)

セシェル国軍司令官によれば、セシェルは2日、3月に2隻のセシェル籍船がソマリアの海賊にハイジャックされたことから、治安部隊を群島の外側に配備した。ソマリアの海賊は、3月半ばに双胴型ヨット、*Serenity*を、3月28日には海洋調査クルーザー、*Indian Ocean Explorer*をセシエルのアサンプション島近くでハイジャックした。国軍司令官は、「我々は、群島外側の戦力を倍増し、沿岸警備隊に必要な指令を与えた」と語った。セシェル群島は、陸地が445平方キロだが、インド洋西部で130万平方キロ以上のEEZを有する。

【関連記事】

3日付のAP電はナイロビから、*Indian Ocean Explorer*のハイジャックについて、要旨以下のよう
に報じている。該船は、海洋調査船を改造したダイビングやフィッシング用の豪華クルーザーで、
ハイジャックされた時には、7人のセシェル人乗組員のみで、乗客はいなかった。米海軍によれば、
該船はセシェル籍船で、3月27日か28日にハイジャックされた。一方、英海軍は、25日にハイジ
ャックされたとしている。該船の写真は、用船したロンドンのダイビングツアー専門の観光会社、
AquatoursのHPによるものである。

Indian Ocean Explorer

<http://www.aquatours.com/seychelles/ioe.htm>

4月3日「韓国派遣艦、バーレーン到着」(Yonhap, April 3, 2009)

韓国がソマリア沖海賊対処のために派遣した、駆逐艦、「文武大王」(満載排水量 4,500 トン) と 300 人余の将兵からなる「青海部隊」は 3 日、バーレーンに到着した。韓国統参本部によれば、「青海部隊」は、米国主導の CTF-151 から提供される作戦情報に基づいて、海賊対処任務を遂行する。アデン湾を通航する韓国船は、年間約 460 隻である。

「文武大王」は 15 日から、アデン湾で護衛任務を開始した。(The Korea Times, April 16, 2009)

4月4日「ソマリアの海賊、マルタ籍船を襲撃」(The Jerusalem Post, April 4, 2009)

イスラエルの海運会社用船、ZIM のコンテナ船 (マルタ籍船)、MV *Africa Star* (1 万 8,037GT) は 4 日、ソマリア沖約 700 キロの公海で、ソマリアの海賊に襲撃された。イスラエル外務省によれば、該船の乗組員にはイスラエル人はいない。2 隻の高速ボートに乗った海賊が自動火器で銃撃し、該船に乗り込もうとしたが、該船のデッキに張り巡らせた有刺鉄線によって阻まれ、乗り込みを断念した。海賊はその後、高速ボートに戻り、数時間にわたって該船をつけ回したが、同航していた海賊母船の速度が遅かったために、追跡を振り切ることができた。

4月4日「ソマリアの海賊、インドのダウ船解放」(Ecoterra International, April 5, 2009)

ソマリアの海賊は 4 日、インドのダウ船、MV *Shehenshah-E-Madina* を解放した。該船は 3 月 30 日にソマリアからアラブ首長国連邦に向かって空船で航行中、アデン湾でハイジャックされた。乗組員 18 人は無事という。

4月4~6日「ソマリアの海賊、4隻の船舶を連続ハイジャック」(AP, April 6, 2009 and others)

6 日付の AP 電は、ソマリアの海賊が 4 日から 6 日にかけて、3 隻の船舶をハイジャックしたと報じた。米第 5 艦隊報道官によれば、ソマリアの海賊は 6 日早朝、セイシェル近海で台湾の漁船、*Win Far 161* をハイジャックした。台湾外務部によれば、乗組員は 30 人である。一方、英国の海運会社のばら積み船、MV *Malaspina Castle* (パナマ籍船、3 万 2,587DWT) が 6 日早朝、アデン湾でハイジャックされた。該船の乗組員は 24 人である。

また、イエメン内務省によれば、ソマリアの海賊は 5 日、イエメンのタグボート、*Al-Ghaith* をソマリア沖のインド洋でハイジャックした。該船の乗組員は、7 人のイエメン人である。(iol, April 5, 2009) 該船は 7 日、解放された。(Saba Net, April 7, 2009)

これらより先、ドイツ籍船のコンテナ船、MV *Hansa Stavanger* (2 万 526DWT) は 4 日、ソマリア南部のキスマヨ沖 400 カイリのケニアとセイシェル間の海域でハイジャックされた。該船の乗組員は 24 人である。(Fairplay Daily News, April 6, 2009)

MV Hansa Stavanger

Source: Fairplay Daily News, April 6, 2009

MV Malaspina Castle

Source: Mail Online, April 6, 2009

【関連記事】**「台湾、米英等に援助を要請」(The China Post, April 8, 2009)**

台湾外交部報道官は7日、台湾はハイジャックされた漁船、*Win Far 161* (700トン) の救出について米英等に援助を求めている、と語った。それによれば、台湾は、バーレーンの英国の **Maritime Trade Organization (UKMTO)** や米第5艦隊に援助を求めると共に、セイシェル漁業局とソマリア港湾局に対しても乗組員への支援を要請した。外交部によれば、該船の乗組員は30人で、船長と機関長が台湾人で、他は中国人5人、フィリピン人17人、インドネシア人6人である。該船は3隻の姉妹船が見ている前でハイジャックされた。3隻は直ちにセイシェルに引き返した。

4月7日「フランス当局、ハイジャックされたヨットの位置確認」(AFP, April 7, 2009)

フランスのクシュネール外相は7日、ソマリアの海賊にソマリア沖で4日にハイジャックされたフランス籍のヨット、*Tanit* の居場所を特定した、と語った。*Tanit* は12.5メートル級の外洋ヨットで、2組の夫婦と子供1人が乗っており、タンザニアのザンジバル諸島に向かっていった。

【関連記事】**「フランス、人質を武力解放」(BBC News, April 11, 2009)**

フランスの大統領府は10日、フランス軍がソマリア沖でハイジャックされたヨット、*Tanit* の人質を解放した、と発表した。この作戦で、海賊2人が殺され、3人が拘束された。ヨットには2組の男女4人と子供1人が乗っていたが、救出作戦で、その内1人、ヨットのオーナーで子供の父親が死亡した。海賊が殺したか、あるいはフランス軍の銃弾によるものかは不明である。フランス軍による武力解放は、これが3度目である。モリン国防相は、「フランスは、脅迫に屈しない、犯罪行為を処罰する、そしてフランス国旗を掲げる船舶がハイジャックされれば、何時でも人質を解放する努力をす

武装海賊にハイジャックされた Tanit と取り巻くフランス特殊部隊

Source: The Guardian, April 12, 2009 (Left) , Reuters, April 10, 2009 (Right)

4月8日「ドイツ、海賊容疑者をケニアに引き渡し」(UPI, April 9, 2009)

ドイツは8日、7人の海賊容疑者をケニアに引き渡した。この7人は、3月27日、ドイツ海軍の補給艦を誤認襲撃した際に、ドイツ海軍のフリゲート、FGS Rheinland-Pfalz に拘束された。フリゲートが8日、ケニアのモンバサ港に入港し、7人をケニア当局に引き渡した。ドイツ国内では、国内法廷で裁くべきかどうかで論議があったが、結局、ケニアとの話し合いで引き渡しを決定した。ドイツによる海賊容疑者のケニアへの引き渡しは、3月9日の9人に次いで2度目である。

4月8日「ソマリアの海賊、初めて米国籍船を襲撃」(The Washington Post, April 8, 2009 and others)

米国籍船のコンテナ船、MV *Maersk Alabama* (1万7,525DWT) は8日、アデン湾南方の海域で海賊に襲撃され、一時占拠された。該船の乗組員は20人の米国人で、海賊は、船長を該船の救命ボートに拉致し、人質とした。

乗組員の1人がCNNとの電話連絡で語ったところによれば、カラシニコフ強襲ライフルで武装した4人のソマリア人海賊が該船を襲撃した。乗組員は12時間にわたって居住区に鍵をかけて閉じこもり、海賊は彼らを見つけることができなかった。海賊は該船に乗り込んだ後、乗ってきた小型ボートを沈めたため、船長は救命ボートと金銭の提供を申し出た。海賊は身代金の形に船長を人質とすることを望んだ。一方、乗組員は海賊の1人を拘束した。その後、乗組員は拘束した海賊を解放したが、海賊は船長を人質として救命ボートで該船を離れた。

該船を運用する Maersk Line によれば、MV *Maersk Alabama* は、米国国際開発援助庁 (USAID) や国連世界食糧計画 (WFP) などの援助物資を積んで、オマーンのサラールからジブチ経由でケニアのモンバサ港に向かう、通常のルートを航行していた。米国船がソマリアの海賊に襲撃されたのは、これが初めてである。

米海軍によれば、該船は、ソマリア北部のエイル南東約280カイリの海上でハイジャックされた。

当時、最も近くにいた米艦は該船から 345 カイリ離れた海域にいた。米海軍誘導ミサイル駆逐艦、USS *Bainbridge* が少なくとも 6 隻の他の戦闘艦と共に現場に向かった。(AP, April 8, 2009)

MV *Maersk Alabama* (1 万 7,525DWT)

MV *Maersk Alabama* lifeboat

Source: The New York Times, April 8, 2009 (Left) , gCaptain, April 9, 2009 (Right)

【関連記事 1】

「海賊、200 万米ドルの身代金要求」(Reuters, April 10, 2009)

MV *Maersk Alabama* の船長、リチャード・フィリップ船長は 10 日、救命ボートから海中に飛び込み、米駆逐艦、USS *Bainbridge* に向かって泳いだが、直ちに海賊に引き戻された。その後、海賊は、船長の解放に当たって、200 万米ドルの身代金を要求しているといわれる。また 4 日にドイツ籍船のコンテナ船、MV *Hansa Stavanger* をハイジャックした海賊グループは、人質を乗せたまま現場に向かっている。海賊情報に通じた筋によれば、これは、米国がドイツ船と人質を攻撃しないと見込んだ上で、米艦が監視している現場で「人間の盾」となることを狙ったものである。

MV *Hansa Stavanger* は 11 日、現場海域に近づくことができず、引き返したという。(CNN, April 11, 2009)

【関連記事 2】

「米海軍特殊部隊、人質の船長を武力解放」(The New York Times, April 12, 2009)

米海軍特殊部隊、SEAL の狙撃班は 12 日夕、フィリップ船長の救出作戦を実行し、船長を救出すると共に、海賊 3 人を射殺した。この作戦は、オバマ大統領の決定を受け、また船長の生命に危険が迫っているとの判断の下に実施され、USS *Bainbridge* の艦尾から狙撃班が、100 フィートの曳航索で米艦に繋がれた長さ 18 フィートの救命ボートに発砲し、3 人を射殺した。

米海軍によれば、狙撃班が発砲した時、2 人の海賊が救命ボートの後部ハッチから頭を出しており、3 人目の海賊は内部で縛られた船長に銃を突きつけているのが救命ボートの前方の窓越しに視認できた。狙撃班は、薄暮の中で暗視装置を使用して、25~30 メートル先の 3 人を狙って 3 発発射した。数分後、米艦が曳航索を手繰り寄せ、救出班が救命ボートに乗り込み、3 人の海賊の死体を発見し、船長が救出された。4 人目の海賊は、これより先に降伏していた。

ここに至るまでの経緯について、NYT は要旨以下のように報じている。

- (1) 国防省高官によれば、国防省は 2 度にわたってオバマ大統領に武力の使用を要請し、2 度目は 10 日の夜であった。オバマ大統領は 11 日の朝、船長の生命に危機が迫っていると判断される場合にのみ、武力の行使に同意した。
- (2) 10 日までに、数隻の戦闘艦が救命ボートを視認できる距離に集まった。こうした中で、解放交渉が行われた。船長が海に飛び込んだ時は、海賊に直ちに捕らえられた。11 日には、海賊は米

- 艦から近づいた小型艇に数発発砲した。
- (3) しかし、それまでに海賊は食糧と水の受け取りに合意し、小型艇が配達に使われ、米艦との間を何度か往復した。この往復の間に、船長を拘束時に腕に負傷した 1 人の海賊が手当を求め、事実上降伏した。3 人の海賊と船長が救命ボートに残された。
- (4) この間、SEAL の隊員が固定翼機で飛来し、RHIB (高速機動ゴムボート) と共に海上に降下し、米艦に乗り込んだ。12 日に救命ボートの燃料が切れ、ソマリア沿岸に向かって漂流し始めた。彼らは米艦から曳航されることに合意した。最初、曳航索は 200 フィートであったが、夕暮れになり、海が荒れ始めると、曳航索が 100 フィートに縮められた。これが海賊の要求かどうかは不明である。
- (5) 薄暮の中、救命ボートから曳光弾が発射されるのが見え、その意図は不明ながら、緊張が高まった。艦尾の狙撃班は暗視装置を高性能ライフルに取り付け、待機した。その時、狙撃班が見たのは、救命ボートの後部ハッチから出ている 2 人の海賊の頭と肩であり、前部の窓越しに見えた、縛られた船長の背後から AK-47 ライフルを突きつけている 3 人目の海賊であった。これは、大統領の命令を実行するチャンスであった。発砲が下命された。

The guided missile destroyer USS *Bainbridge* (DDG 96) tows the lifeboat from the *Maersk Alabama* to the amphibious assault ship USS *Boxer* (LHD 4)

A team from the *Maersk Alabama* to the amphibious assault ship USS *Boxer* (LHD 4) tows the lifeboat from the *Maersk Alabama* to the USS *Boxer* to be processed for evidence.

Source: gCaptain, April 14, 2009

<http://gcaptain.com/maritime/blog/photos-week-maersk-alabama/more-7907>

備考：米中央軍、ゴートニー海軍司令官の救出状況についての記者会見のトランスクリプトは以下の参照；

[DoD News Briefing With Vice Adm. Gortney From Bahrain](#)

【関連記事 3】

「オバマ大統領、救出作戦を賞賛」(The White House, Press release, April 12, 2009)

オバマ大統領は 12 日、声明を発表し、救出作戦を賞賛した。大統領は声明で、フィリップ船長が救出されたことを喜ぶと共に、軍と多くの関係当局者の努力を多とした。その上で、大統領は、「我々は引き続き、この海域の海賊の跋扈を阻止していく決意である。そのために、新たな襲撃を阻止するために、関係国との連携を維持していかなければならない」と強調した。

4 月 9 日「シンガポール、ソマリア海域に揚陸艦派遣」(The Straits Times, April 10, 2009)

シンガポール海軍の揚陸艦、RSS *Persistence* は 9 日、海賊哨戒活動に参加するため、アデン湾に向けて出航した。RSS *Persistence* は、2 機のヘリを搭載し、240 人の将兵が乗艦し、3 カ月の期間、CTF-151 に参加して、哨戒活動を実施する。RSS *Persistence* は、アデン湾を通航する商船の護衛だけでなく、あらゆる船舶の救難要請にも対応する。2008 年にアデン湾を航行中に海賊に襲撃または追跡された 100 隻以上の船舶の内、14 隻がシンガポール籍船であった。

【関連記事】

「シンガポール海軍揚陸艦、CTF-151 で任務開始」(CTF-151, Public Affairs, Press Release, April 23, 2009)

シンガポールがソマリア沖派遣した、揚陸艦、RSS *Persistence* は 23 日、CTF-151 に参加して、任務を開始した。

揚陸艦、RSS *Persistence* から発進したヘリが 25 日、モンゴル籍船、MV *Harmony Falcon* からの救難信号に対応して、該船に接近する 4 隻のボートを発見し、警告を発し、ボートは逃亡した。これが最初の海賊対処活動となった。(The Straits Times, April 29, 2009)

4 月 10 日「ソマリアの海賊、ノルウェーのタンカー解放」(RIA Novosti, April 13, 2009)

ロシア外務省が 13 日に明らかにしたところによれば、ソマリアの海賊は 10 日、ノルウェーのケミカル・タンカー（バハマ籍船）、MT *Bow Asir* を解放した。該船の乗組員は 27 人で、3 月 26 日にソマリア南部のキスマヨ港東方約 250 カイリでハイジャックされた。ノルウェーの新聞によれば、船主側が身代金を支払った後、解放されたという。海賊は、240 万米ドルの身代金を要求していた。

4 月 11 日「ソマリアの海賊、イタリアのタグボートをハイジャック」(Maritime Security Centre, Horn of Africa, Press Release, April 11, 2009)

米国の海運会社所有で、アラブ首長国連邦の海運会社運用のイタリア籍船、タグボート、*Buccaneer* (2 隻のバージ曳航) が 11 日、アデン湾を航行中にハイジャックされた。乗組員は 16 人で、負傷者はいないと見られる。

Buccaneer

Source: Trade Winds, April 24, 2009

4月13日「中国第2次ソマリア派遣艦隊、アデン湾に到着」(Xinhua, April 13, 2009)

中国の第2次ソマリア派遣艦隊、誘導ミサイル駆逐艦「深圳」(満載排水量6,000トン)、フリゲート「黄石」(同1,924トン)は13日、アデン湾に到着した。総合補給艦「微山湖」は任務を継続する。第1次派遣艦隊は、第2次派遣艦隊に状況説明と過去3カ月間の経験を伝授することになっており、両艦隊は1週間任務を共にする。第1次艦隊は1月6日以来、外国船29隻を含む206隻の船舶を護衛し、3隻の外国船を海賊の襲撃から救出した。

4月14日「ソマリアの海賊、2隻の船舶をハイジャック」(Reuters, April 14, 2009)

ソマリアの海賊は14日、2隻の船舶をハイジャックし、別の1隻を襲撃した。ギリシャのばら積み船(セントビンセント・グレナディーン籍船)、MV *Irene E. M* (3万8,340DWT) とトーゴ籍船の貨物船、MV *Sea Horse* が14日、ハイジャックされた。ポルトガル海軍戦闘艦、*Corte-Real*によれば、同艦がアデン湾を航行中のMV *Irene E. M*からの救難信号を受信したが、その3分後にハイジャックされた。ハイジャックは夜、月明かりを利用して行われた。これは極めて異例という。ギリシャの海運会社によれば、該船はヨルダンからインドに向けて航行中で、乗組員は22人のフィリピン人で、負傷者はないという。この数時間後、MV *Sea Horse* (7,435DWT) がソマリア沖約77カイリで、3~4隻の小型ボートの乗った海賊にハイジャックされた。

MV *Irene E. M*

<http://www.shipspotting.com/modules/myalbum/photo.php?lid=450528>

【関連記事】**「ソマリアの海賊、トーゴ籍船を解放」(Trade Winds, April 20, 2009)**

ソマリアの海賊は17日、トーゴ籍船、MV *Sea Horse* を解放した。該船は14日、国連世界食糧計画(WFP)でトウモロコシをソマリアに輸送するためにインドのムンバイに向かう途中でハイジャックされた。該船の釈放は非常に早く、10万米ドルの身代金が支払われたとの報道もあるが、ある関係者は、身代金は支払われていないと語っている。

4月14日「ソマリアの海賊、2隻目の米商船を襲撃」(AP, April 15, 2009)

ソマリアの海賊は14日、米国籍船の貨物船、MV *Liberty Sun* を襲撃した。一部の海賊グループは米国人に対する報復を主張していたが、今回の2隻目の米国籍船に対する襲撃は海賊の能力を示す事案となった。襲撃海域は、ソマリアの首都、モガディシュ南東約285カイリのインド洋で、海賊は該船に自動火器とロケット推進擲弾を発射した。20人余の米国人乗組員が機関室に閉じ籠もり、回避行動を取って襲撃を逃れた。該船はブリッジにかなりの損傷を受けたという。該船は、援助物資の食糧を輸送していた。5時間後に米艦、が現場に到着したが、既に海賊はいなかった。

BBCが15日に報じたところによれば、ある海賊は、今回の襲撃の狙いについて、「今回の襲撃の狙いはこれまでとは全く異なり、身代金狙いではなかった。我々は、仲間を殺した報復のために、米国旗を掲げるどんな船舶でも追跡し、破壊するために、特別装備を持ったチームを編成した」と語ったという。(BBC News, April 15, 2009)

4月15日「フランス、海賊の『母船』を拿捕、11人拘束」(AP, April 15, 2009)

フランス海軍は15日、ケニアのモンバサ東方550カイリの海域で、海賊の「母船」と見られる船を拿捕し、リベリア籍船の貨物船、MV *Safmarine Asia* を攻撃した11人の海賊容疑者を拘束した。フランス国防省によれば、MV *Safmarine Asia* からの救難信号を受けて、海軍のヘリが現場に向かった。拿捕した船は、燃料、水、食糧補給などに使われる小型船である。11人はソマリア人と見られ、フランス海軍フリゲート、*Nivose* に収容された。

This aerial photo taken from a French Navy helicopter and released by the French Defense Ministry on Wednesday, April 15, 2009, showing a pirate "mother ship".
(AP, April 15, 2009)

【関連記事】

「フランス、11人の海賊容疑者をケニアに引き渡し」(Maritime Security Centre, Horn of Africa, Press Release, April 23, 2009)

フランス海軍フリゲート、*Nivose*は22日、ケニアのモンバサに到着し、11人の海賊容疑者をケニア当局に引き渡した。

4月16日「ソマリアの海賊、ギリシャ船を解放」(Shiptalk, April 17, 2009)

ソマリアの海賊は16日、ギリシャ船、MV *Titan* (セントビンセント・グレナディーン籍船)を解放した。乗組員24人の健康状態は良好という。該船は3月19日にアデン湾でハイジャックされた。解放後、韓国への航行を再開したという。

4月18日「オランダ海軍、海賊容疑者を拘束後釈放」(MARINE LOG, April 18, 2009)

NATO艦隊に属するオランダ海軍フリゲート、*De Zeven Provinciën*は18日、アデン南方約85カイリの海域を航行中のマーシャル諸島籍船のケミカル・精製品タンカー、*Handytankers Magic*からの救難信号を受け、現場に向かい、ダウ船を拿捕した。オランダ海軍海兵隊が2隻のRHIBでダウ船に乗り込んだ。7丁のAK-47強襲ライフルとロケット推進擲弾筒1丁が発見され、船上には27人がいた。その内、7人が海賊容疑者と判断され、その他はこのダウ船が9日にハイジャックされた時のイエメン人漁民であった。海賊は、このダウ船を「母船」として使用していた。ダウ船は漁民と共にイエメンに返還され、捕獲武器やその他の装備は破壊された。海賊容疑者はその後、小型ボートに乗せられて釈放された。NATOの報道官は、NATOは拘束方針をとっておらず、各国の国内法が適用されるが、この状況下ではオランダ国内では起訴できない、と語った。

オランダ海軍によるダウ船拿捕の様子

<http://www.marinelog.com/DOCS/NEWSMIX/2009apr00181.html>

4月18日「ソマリアの海賊、ベルギー船をハイジャック」(Fairplay Daily News, April 19, 2009)

ソマリアの海賊は18日、セイシエル北方150カイリのインド洋で、ベルギー籍船の石材運搬船、MV *Pompei* (1,220DWT)をハイジャックした。該船は、空船で南アフリカのダーバンに向かっていった。乗組員は11人である。MV *Pompei*はハイジャックされる前に2度救難信号を発していた。

MV Pompei

Source: Fairplay Daily News, April 19, 2009

4月19日「カナダ海軍、海賊容疑者を拘束後、釈放」(MARINE LOG, April 19, 2009)

NATO 艦隊に属するカナダ海軍のフリゲート、HMCS *Winnipeg* は 19 日、ノルウェーの海運会社用船のタンカー、MV *Front Ardenne* に対する海賊の襲撃を阻止した。7 人のソマリア人が乗った小型ボートは、同艦から発進したヘリによる警告射撃を無視して逃亡した。約 7 時間の追跡後、小型ボートを発見し、激しい警告射撃の後、カナダ海軍の臨検チームが乗り込み、ロケット推進擲弾を発見した。カナダ海軍は、7 人の海賊容疑者を武装解除し、一時拘束の後、釈放した。NATO 艦隊に属する戦闘艦が海賊を拘束した場合、戦闘艦派遣国の国内法が適用されるが、カナダ籍船が攻撃されない限り、起訴できない。

4月20日「インド海軍、セイシエルの EEZ を哨戒開始」(indian express, April 20, 2009)

ソマリアの海賊行動がアデン湾からインド洋に南下していることに伴い、インド海軍は、セイシエルの要請を受けて、海軍調査艦、INS *Nirdeshak* を派遣して、同国近海で対海賊哨戒活動を実施する。セイシエル軍当局は 20 日、インド海軍に自国の EEZ 内を哨戒するよう要請した、と語った。同国海軍は、INS *Nirdeshak* が EEZ 内に派遣されていることを確認した。同艦は、海軍の調査艦ではあるが、対海賊哨戒活動を実施する上でヘリなど適切な装備を保有している。セイシエルでは、自国近海でのソマリアの海賊活動の増加に懸念を高めており、最近数週間で少なくとも 10 人のセイシエル人が人質になっている。ソマリアの海賊は、アデン湾での各国海軍の哨戒活動から逃れて、セイシエル近海での活動を活発化させている。数グループの海賊が、セイシエル最大のマヘー島の北方 200 カイリ弱の海域で活動していると言われる。

4月21日「ソマリアの海賊、フィリピン籍船を解放」(Fairplay Daily News, April 21, 2009)

ソマリアの海賊は 21 日、フィリピン籍船のケミカル・タンカー、MT *Stolt Strength* (33,209DWT) を解放した。23 人の乗組員は無事という。用船する Stolt 社は、身代金が支払われたかどうかについては、コメントしていない。該船は、2008 年 11 月 10 日にアデン湾でハイジャックされた。該船は、日本関係船でもある。

MT *Stolt Strength* (33,209DWT)

<http://www.mschoa.org/FairplayStoryDisplay.aspx?articlename=dn0020090312000031>

4月23日「海賊、南シナ海でギリシャの貨物船を襲撃」(Trade Winds, April 23, 2009)

シンガポールの ReCAAP 情報センターによれば、ギリシャのばら積み船、MV *Sider Lion* (2万4,100DWT) は23日、南シナ海で海賊に襲撃された。ナイフで武装した6人の海賊が該船に乗り込み、乗組員を人質に、金品や携帯電話、カメラなどを奪って、逃亡した。

4月23日「スペイン、自国籍船への民間武装要員の乗船を許可」(Shiptalk, April 27, 2009)

スペインは23日、海運業界の要請に応じて、ソマリア沖での海賊対策のために、自国籍船への民間武装要員の乗船を許可した。また、チャコン国防相はケニア訪問中の26日、スペインは、ソマリア南部沖合での漁獲シーズン中、スペインのマグロ漁船を保護するために、ケニアにP-3海上哨戒機を派遣する、と語った。この措置は、インド洋に出漁するスペイン漁民の要請に応えるもので、EU艦隊の対海賊対処海域を拡大することになる。

4月24日「NATO、海賊対処活動を延長」(Reuters, April 24, 2009)

NATO 当局は24日、1カ月間のソマリア沖での海賊対処活動を、艦隊のシンガポールとオーストラリア訪問をキャンセルして、6月20日まで延長することを明らかにした。4隻の戦闘艦から構成される任務部隊は、パキスタンのカラチ港への短期間の寄港後、アデン湾での任務を再開する。艦隊は当初、23日で任務を終了する予定であった。

4月25日「ソマリアの海賊、ドイツ船をハイジャック」(Reuters, April 26, 2009)

東アフリカ船員支援計画のムワングラ代表によれば、マルタ籍船のドイツの穀物輸送船、MV *Patriot* (3万1,838DWT) は25日、アデン湾でハイジャックされた。該船の乗組員は17人である。一方で、ソマリアの海賊は、マルタ籍船のギリシャの貨物船、MV *Saldanha* を解放した。該船は2月22日にハイジャックされた。190万米ドルの身代金が支払われたという。

MV Patriot (3万1,838DWT)

<http://www.shipspotting.com/modules/myalbum/photo.php?lid=8564>

4月26日「ソマリアの海賊、イタリアの客船を襲撃」(AP, April 27, 2009)

イタリアの客船、MSC *Melody*は26日夜、ソマリア沿岸から約500カイリ離れた、セイシェル北方約200カイリのインド洋で、小型高速ボートに乗った6人の海賊に接近され、銃撃された。該船のイスラエル人保安要員が応戦し、海賊は逃亡した。該船の1,000人の乗客と500人の乗組員に被害はなかった。

【関連記事】**「スペイン海軍、海賊容疑者9人を拘束」(AFP, April 28, 2009)**

スペイン海軍のフリゲート、*Numancia*は28日、小型ボートに乗った9人の海賊容疑者を拘束した。彼らは26日夜、イタリアの客船、MSC *Melody*を襲撃したソマリア人海賊と見られる。客船が襲撃された後、*Numancia*は、フランスとセイシエルの哨戒機、イタリア海軍戦闘艦と共に、襲撃者を捜索していた。スペイン国防省によれば、海軍部隊は、襲撃現場に近い海域で、2隻のボートに乗った9人の海賊容疑者を発見した。スペイン海軍は、9人をセイシェル領海で拘束したことから、セイシエルの艦艇に引き渡した。

Nine suspected pirates could go on trial in the Seychelles after they were arrested
by the Spanish Navy

Source: Trade Winds, April 29, 2009

4月26日「ソマリアの海賊、イエメンのタンカー解放」(Reuters, April 26, 2009)

ソマリアの海賊は26日、イエメンのタンカー(パナマ籍船)、MT *Sea Princess II*を解放した。該船は、1月2日にアデン湾でハイジャックされた。

4月27日「イエメン軍特殊部隊、自国タンカーを解放」(Fairplay Daily News, April 27, 2009)

イエメン軍特殊部隊は27日、自国籍タンカー、MT *Qana* を解放した。該船は26日にハイジャックされたが、石油を積んでいなかった。乗組員は23人で、インド人3人以外は全てイエメン人である。特殊部隊は戦闘で、5人の海賊を殺し、少なくとも9人を拘束した。

4月28日「ロシア海軍、29人の海賊容疑者を拘束」(Itar-Tass, April 29, 2009)

ロシア国防省によれば、ロシア海軍の駆逐艦、*Admiral Panteleev* は28日、ソマリア沖で29人の海賊容疑者を拘束した。同艦が拿捕したボートには、7丁のカラシニコフ機関銃、各種口径の銃、衛星航法装置を含む各種装備、多数の貝殻が発見された。国防省によれば、これらの海賊容疑者は、27日にアデン湾で23人のロシア人が乗ったリベリア籍船のタンカー、MT *NS Commander* を襲撃したグループと見られる証拠がある。

1.2 軍事

4月10日「2001年以來の口中軍事技術協力、総額160億米ドル相当に」(RIA Novosti, April 10, 2009)

ロシアの武器輸出公社、Rosoboronexport のイサイキン長官によれば、2001年以來の口中軍事技術協力は総額160億米ドルに達した。しかし、近年、ロシアの中国に対する武器輸出は減少している。ロシアの武器輸出に占める中国のシェアは2008年には18%に減少し、将来的には10~15%程度に減少すると見込まれている。もっとも、金額から見れば、対中輸出は年平均10億米ドルを超えており、2009年の最初の対中輸出はJ-10用エンジン100基余の売却であった。

他方、軍事専門家によれば、口中軍事協力は、中国がロシアの軍事技術を自国産のコピー装備の生産に利用することに対するロシアの懸念から、かげりが出てきている。例えば、ロシアは、空母搭載戦闘機、Su-33の対中売却を、中国がこれをベースにより安価な輸出用戦闘機を生産する可能性を懸念して、拒否した。ロシア国防省筋は、売却拒否は中国が知的財産協定に違反してSu-27Kの自国産コピーを生産したためであることを確認した。

4月23日「中国海軍、初の国際観艦式を実施」(Xinhua, April 23, 2009)

中国海軍は、創設60周年を迎えた23日、山東省青島沖で初の国際観艦式を実施した。観艦式には、14カ国から21隻の艦艇が参加した。胡錦濤国家主席は、誘導ミサイル駆逐艦、「石家荘」から観閲した。中国海軍は、原子力潜水艦や最新鋭の水上艦などが参加した。

参加外国艦艇では、ロシアから太平洋艦隊旗艦の誘導ミサイル巡洋艦、*Varyag*、米国からは第7艦隊の誘導ミサイル駆逐艦、USS *Fitzgerald*、インドからは駆逐艦、INS *Mumbai*、INS *Ranvir*、韓国からは駆逐艦、「姜邯賛」、揚陸艦、「独島」などが参加した。日本からの艦艇派遣はなかった。

Left: Naval helicopters performed fly-pasts over the warships.

Right: Foreign warships also attended. They included US missile destroyer, USS *Fitzgerald* (L) and Russia' s missile cruiser, *Varyyag* (R)

The submarines a line with warships

Source: BBC News, April 23, 2009

4月27日「韓国、済州島に新海軍基地建設」(The Korea Times, April 27, 2009)

韓国政府は27日、大幅に遅れていた済州島の新戦略海軍基地建設計画を承認した。国防省、国土海洋省、及び済州道当局との間で、基地建設に関する覚書が調印された。新基地は、戦闘艦艇のみならず、客船に寄港も可能である。この計画は2002年に着手されたが、地元の反対などで何度も中止されてきた。5カ年の建設計画は、環境調査などを経て、2009年12月に始まる。新基地は、最新の商業港としても利用可能で、15万トン級の客船2隻が停泊可能となる。海軍艦艇は約20隻が停泊可能で、2015年に編成予定の海軍「戦略機動艦隊」の母港となる。海軍当局によれば、機動艦隊は、地域紛争に対する迅速な展開が可能で、*KDX-II*級(4,500トン)駆逐艦、*KDX-III*級イージス艦(7,600トン)、*Type-214*級潜水艦(1,800トン)、リンクス・対戦ヘリ、及びフリゲートなどで構成される。この計画に合わせて、空軍も、南部海域における海軍の活動を支援するために、搜索救難用の基地を建設する計画である。

The prospective outlook of a strategic naval base to be constructed on the southern resort island of Jeju over the next five years.

Source: The Korea Times, April 27, 2009

1.3 外交・国際関係

4月3日「ケニア、ソマリアとの間で海洋境界了解覚書に調印」(Xinhau, April 3, 2009)

ケニアは3日、ソマリアとの間で海洋境界に関する了解覚書に調印した。国連海洋法条約に規定によれば、200カイリを超えて大陸棚外側限界の延長を申請する国は、申請を裏付ける十分な科学的、技術的データを添えて、「国連大陸棚限界委員会」(CLCS)に申請する必要がある。ケニアの場合は、2009年5月12日が期限である。ケニアは、申請に先立って、タンザニアとソマリアとの間で海洋境界に関する合意が必要であった。この覚書は、ケニア外相とソマリア暫定連邦政府首相との間で調印された。外相によれば、タンザニアとの間でも同様の覚書について交渉中である。

4月8日「フィリピン、フィリピン海側の大陸棚外側限界の延長を国連に申請」(The Manila Times, April 13, 2009)

フィリピンは8日、国連大陸棚限界委員会 (CLCS) に対して、ルソン島東側のフィリピン海のベンナム海盆 (Benham Rise) について、大陸棚外側限界の延長申請を行った。今回の申請は “partial submission” と題されており、このことは、今後、係争領域を含む別の申請が提出されることを意味している。フィリピンは、係争領域のカラヤン諸島 (南沙諸島) とスカーバラ礁についても、同国の大陸棚の延長である、と主張している。今回、境界を巡る係争がないベンナム海盆について部分申請することで、フィリピンは、5月13日までの提出という締め切りを止め、カラヤン諸島とスカーバラ礁について関係国と境界問題を解決する時間を確保した。

フィリピン政府の申請書は、「フィリピンは、誠意の証として、向かい合っているか、あるいは隣接している沿岸国間で海洋境界についての紛争を生起させたり、あるいは激化させたりすることを回避するために、こうした沿岸国間でこれまで海洋境界を巡る紛争が全くなかった海域について、部分申請を行った」と述べている。フィリピン政府によれば、CLCSの手続き規則では、こうした現在も、

あるいは将来においても海洋境界を巡る紛争対象でない大陸棚海域について、単一の当該沿岸国は“partial submission”を行うことができる、としている。

申請書では、ベンナム海盆はフィリピンの大陸棚の延長である、と主張している。申請書によれば、ベンナム海盆海域における 200 カイリを超える大陸棚の外側限界ラインは、国連海洋法条約 (UNCLOS) 第 76 条第 7 項の規定に従って、経緯度によって定める点を結ぶ、60 カイリを超えない長さの直線によって引かれている (地図参照)。

この図は申請書の Figure 4 : The outer limits of the continental shelf beyond 200 M in the Benham Rise region. The 200 M line and the 350 M constraint line are also shown. である。図のラインは左から Baseline、200 M Line、Outer Limits of the Continental Shelf beyond 200 M、350 M Constraint Line を示す。

<http://verafiles.org/images/stories/graphics/benham-rise.jpg>

備考：フィリピンの申請書は以下を参照；

http://www.un.org/Depts/los/clcs_new/submissions_files/submission_phl_22_2009.htm

1.4 海運・資源・環境・その他

4月12日「バングラデシュ、深水港建設を計画」(Reuters, April 12, 2009)

バングラデシュは12日、同国の増大する対外貿易に対処すると共に、域内における物流のバブ機能を強化するために、深水港を建設することを明らかにした。同国のチッタゴン港の荷役量は2007

年に2,760万トン、対前年比2.3%となり、一方コンテナ取扱量は同年で95万8,020TEUとなり、対前年比9.3%増であった。また、海運省によれば、インドとミャンマーは、チッタゴン港経由でバングラデシュからの経由施設の建設を求めている。日本のthe Pacific Consultant International (PCI)は既に、the Chittagong Port Authority (CPA)による深水港建設計画に関するフィージビリティ調査を実施している。CPAがチッタゴン港南方65キロのクトゥブディアに深水港建設を計画し、PCIは2006年に調査契約を行った。PCIの調査は、チッタゴン港の近くに2055年までに3段階計画で、12億米ドルを投下して深水港を建設することを提示した。しかし、この計画は、その後の同国の政治状況で埋もれていたが、2009年1月に成立した新政府によって、優先課題として復活した。

CPAによれば、深水港が建設されれば、コンテナ取扱量は300万TEUに、また一般貨物の荷役量は1億トンに増大する。また、同港は、ネパール、ブータン、中国南部、ミャンマー及びインド北東内陸部への地域的な物流ハブとしても期待される。CPAは、深水港の建設費用の30%を負担し、残りは中央及び地方政府、国際投資機関等から賄うという。PCIの計画によれば、第1段階は2016年に完了し、付帯インフラと支援施設と共に、9本の300メートル栈橋を持つ2つの泊地が建設される。第2段階では、2035までに同じ規模の泊地が更に2カ所建設される。2055年と見込まれる完成時には、深水港は6カ所の泊地を有する港となる。PCIの調査では、チッタゴン港及びリゾートタウンコックスバザールと深水港とを結ぶ40キロの鉄道と道路の建設も提案されている。

4月15日「パナマ運河、通峡隻数微減」(Maritime Global Net, April 15, 2009)

パナマ運河庁(ACP)によれば、2009年度第2四半期の通峡隻数は、前年度同期に比して1.4%減の3,914隻であった。この内、「通峡に当たって所要時間と航行技能を要する」大型船の通峡隻数は、同2.9%減の1,815隻であった。他方、待機時間を含め通峡に要する平均時間、Canal Waters Time (CWT)は、前年度同期の36.39時間から27.9%減の26.22時間に大幅に短縮された。また、通峡予約船のCWTは、同19.66時間から19.5%減の15.83時間となった。CWTの短縮は、ACPの効率的運用と通峡隻数の微減によると見られる。通峡船種では、一般貨物船、乾性ばら積み船、タンカーの通峡隻数は増加しているが、冷凍貨物船、コンテナ船、車両運搬船、及び客船の通峡隻数は減少した。

4月20日「フィリピン政府、アデン湾通航船舶への自国船員派遣禁止」(Fairplay Daily News, April 20, 2009)

フィリピン政府は20日、アデン湾通航船舶への自国船員の派遣を禁止した。国際海運会議所(the International Chamber of Shipping)によれば、清掃員や料理人を含めて、世界の船員の20%強がフィリピン人である。アロヨ大統領は、この禁止令を厳格に履行するために、政府関係部局、船員派遣会社及び船主間で緊密な協議をするよう指示した。20日の時点で、108人のフィリピン人がソマリアで人質となっている。しかし、フィリピン海員連合組合(the union United Filipino Seafarers)は、職を失うことを懸念して、禁止令の履行は技術的に不可能であり、ばかげた措置である、と主張している。組合は、アデン湾航行前に最寄りの港でフィリピン人船員を下船させ、「危険海域」を通過後再び乗船させる計画に反対している。ラミレッツ組合委員長は、「まともな船主なら誰も、自社の船舶がアデン湾に向かう前に、フィリピン人船員を下船させることなど考えもしないであろう」と語っている。

2. 情報分析

2009 年第 1 四半期 IMB 報告書とソマリア海賊事案の特徴

国際海事局 (the International Maritime Bureau: IMB) はクアラルンプールにある海賊通報センター (Piracy Reporting Centre: PRC) を通じて、2009 年 4 月 21 日、2009 年第 1 四半期まで (1 月 1 日～3 月 31 日) の世界で起きた船舶への海賊行為と武装強盗事案に関する報告書を公表した。IMB の定義によれば、海賊 (Piracy) と武装強盗 (Armed Robbery) とは、「強盗あるいはその他の犯罪に及ぶ明らかな意図を持って、そしてこれらの行為をするに当たって武器を使用する明らかな意図あるいは能力を持って、船舶に乗り込む、あるいは乗り込もうとする行為」をいう。この定義には、当該船舶が入港中、錨泊中、航行中のいずれを問わず、既遂、未遂の全ての行為が含まれているが、ナイフで武装していない窃盗は除かれている。

以下は、報告書の主な内容と 2009 年 4 月末までのソマリア海賊襲撃事案の特徴について、纏めたものである。

1. 発生 (未遂を含む) 件数と発生海域から見た特徴

2009 年第 1 四半期までに通報された全発生件数は 102 件であった。その内訳は、既遂が 43 件で、その内、ハイジャックが 9 件で、乗り込み事案が 34 件であった。未遂事案は 59 件で、その内、発砲が 29 件、乗り込み未遂事案が 30 件であった。この件数は、2008 年同期の 49 件 (同通年 293 件) から激増している。これは、過去 6 年間で最も多かった 2004 年同期の 79 件 (同 329 件) 比べても大幅増となっている。この主たる要因は、後述するように、アデン湾・ソマリア沖での襲撃事案の激増にある。(なお、IMB は、これら以外に未通報の襲撃事案がかなりあると見ており、全ての船舶の船長、船主やその他の関係者に海賊事案や武装強盗事案を PRC に通報するよう慫慂している。)

表 1 に見るように、発生海域から見れば、第 1 四半期までの 102 件中、3 分の 2 以上が 4 カ所の海域で発生している。その内、アデン湾・紅海が圧倒的に多く 41 件 (2008 年同期 5 件) で、ソマリア沖の 20 件 (同 1 件) と合わせれば、「アフリカの角」周辺海域で 61 件となり、全発生件数の半分以上を占め、世界で最も危険な海域となっている。この海域では、2008 年 8 月以降から襲撃事案が激増しており、海域が荒れる 1 月と 2 月を除いて、3 月以降、襲撃事案の増大が続いている。

「アフリカの角」周辺海域について、襲撃事案の危険性が指摘される海域はナイジェリア沖で、発生件数は 7 件で、2008 年同期の 10 件に比して減少している。報告書は、この海域では、多くの未通報事案があると見ている。これら事案の半分近くが石油産業に関係する支援船や関連施設で発生している。海賊は暴力的で、航行中や錨泊中の船舶に乗り込み、強盗を働いたり、人質を拉致したりする。

もう 1 カ所はペルーの 7 件で、過去 5 年間の件数が平均 2 件程度であることから見れば、増えている。報告書によれば、ここでの事案は、停泊中や投錨中の船舶に乗り込み備品などを盗む武装強盗で、身代金狙いの人質事案ではない。

他方、アジア地域を見れば、インドネシア群島水域は既遂 1 件で、過去 6 年間で最も多かった 2004 年同期の 21 件から大幅な減少傾向となっている。報告書は、インドネシアの海賊対策努力を評価している。その他のアジアの海域では、インドが 3 件、ベトナムが 4 件、マレーシアが 2 件、タイが 1

件、バングラデシュが1件となっているが、いずれも既遂の強盗事案である。タイの事案は、3月24日、3人のナイフとハンマーで武装した強盗が英国のヨットを襲撃し、スキッパーを殺害した。

またマラッカ海峡での発生件数は既遂1件だが、2007年8月以来の人質拉致事案であった。2月19日、シンガポールのタグ&バージがシンガポールに向かって航行中、約12人の火器で武装した海賊に襲撃され、2人の乗組員が拉致され、その後解放されたが、身代金が支払われたといわれる。

表1：最近6年間の各年第1四半期までのアジア及びその他の多発海域での発生（未遂を含む）件数の推移

海 域	2009	2008	2007	2006	2005	2004
インドネシア	1	4	9	19	16	21
マラッカ海峡	1		2		4	8
マレーシア	2	1	1	3	2	
フィリピン		2		1		
シンガポール海峡		1		1	2	6
タイ	1			1	1	1
南シナ海					1	1
ベトナム	4	1	1	1	3	3
バングラデシュ	1	2	2	9	6	8
インド	3	5	3		5	
ケニア	1					
アデン湾 / 紅海*	41	5	3	7	3	3
ソマリア	20	1	2	5	3	
タンザニア	2	4	3			
インド洋	1					
ナイジェリア	7	10	6	4		10
各年第1四半期合計**	102	49	41	61	56	79
各年通年合計**		293	263	239	276	329

出典：2009年第1四半期報告書5～6ページの表1から作成。

注*：内、紅海での襲撃は1件である。

注**：件数は報告書の全ての対象海域を含む。

2. 態様から見た特徴

表2は最近6年間のアジア及びその他の多発海域における2009年第1四半期までの襲撃の態様を海域毎に示したものである。

表 2 : アジア及びその他の多発海域における 2009 年第 1 四半期までの襲撃の態様

海 域	既遂事案				未遂事案	
	Boarded	Hijacked	Detained	Missing	Fired Upon	Attempted Boarding
インドネシア	1					
マラッカ海峡	1					
マレーシア	2					
タイ	1					
ベトナム	4					
バングラデシュ	1					
インド	3					
ケニア	1					
アデン湾／紅海*		5			16	20
ソマリア	1	4			11	4
タンザニア	1					1
インド洋						1
ナイジェリア	4				2	1
各年第 1 四半期 合計**	34	9			29	30
各年通年合計**	102					

出典：2009 年第 1 四半期報告書 8 の表 2 から作成。

注*：内、紅海は未遂事案の 1 件である。

注**：件数は報告書の全ての対象海域を含む。

一方、報告書によれば、2009 年第 1 四半期までの既遂事案 43 件の内、停泊中 (berthed) が 4 件 (2008 年同期 7 件)、錨泊中 (anchored) が 23 件 (同 18 件) で、航行中 (steaming) が 11 件 (同 11 件) で、情報なし (not stated) が 1 件 (同 1 件) であった。また、未遂事案 59 件の内、停泊中が 0 件 (同 1 件)、錨泊中が 5 件 (同件)、航行中が 54 件 (同 9 件) であった。

航行中の既遂事案 11 件の内、マレーシアの事案 1 件を除いて、アデン湾／紅海が 5 件、ソマリアが 5 件で、この海域の既遂事案 10 件の全てが航行中であった。また、航行中の未遂 54 件の内、アデン湾 / 紅海が 36 件、ソマリアが 15 件であった。この海域の既遂、未遂事案全てが航行中の事案であり、この海域の海賊が小型高速ボートの発進基地として「母船」を使用して、航行中の船舶を襲撃する特性を反映している。

3. 被害船舶のタイプ

2009 年第 1 四半期までの全襲撃件数 102 件を船舶のタイプで見れば、最も多かったのは Bulk Carrier で 32 隻 (2008 年同期 8 隻)、2 番目に多かったのは Tanker Chemical/Product の 16 隻 (同 7 隻)、Container の 16 隻 (同 9 隻)、4 番目が Tanker Crude Oil で 11 隻 (同 7 隻)、5 番目が General Cargo で 10 隻 (同 7 隻) であった。その他、RoRo 船、Trawler/Fishing、Yacht が各 3 隻、Catamaran

(双胴船) が 2 隻などであった。これら襲撃される件数の多い船舶のタイプはここ数年の傾向である。

表 3 は、ソマリアの海賊が 2009 年 4 月末までに、アデン湾・ソマリア沖（インド洋を含む）でハイジャックした船舶から、主な船舶の諸元を示したものである。この海域における海賊襲撃事案は、未遂も含め全てハイジャックがらみの事案である。

表 3：2009 年 4 月末までの主なハイジャック船の諸元

Name	Type	GRT	DWT	乾舷(ft)	速度(k)	乗組員
<i>Blue Star</i>	General Cargo	6,168	7,032	7	15	28
<i>Sea Princess II</i>	Product Tanker	1,902	3,399	2	12	15
<i>Longchamp</i>	LPG Tanker	3,415	4,318	5	13	13
<i>Saldanha</i>	Bulk Carrier	38,886	75,707	17	14.5	22
<i>Bow Asir</i>	Chemical Tanker	14,626	22,847	9.5	15.5	27
<i>Nipayia</i>	Chemical Tanker	5,357	8,742	8	13	19
<i>Hans Stavanger</i>	Containership	15,988	20,526	11	18	24
<i>Malaspina Castle</i>	Bulk Carrier	21,173	32,587	14	15	24
<i>Buccaneer</i>	Tug & Barge	1,672	2,524	4	12	16
<i>Irene E. M.</i>	Bulk Carrier	21,947	32,025	9	13	22
<i>Pompei</i>	General Cargo	1,482	1,220	2	9	10
<i>Patriot</i>	Bulk Carrier	19,795	31,838	13	14	17

出典：U.S. Department of Transportation, Maritime Administration, List of Ships Hijacked から作成。

上表に見るように、2008 年にハイジャックされた船舶も含め、この海域でハイジャックされやすい船舶は、満載時の乾舷が比較的 low（上記表は空荷の場合）、低速（15 ノット以下）で、乗組員の少ない（平均 20～25 人前後）船舶が平均的である。2008 年 11 月 15 日にハイジャックされた、MT *Sirius Star* は、16 万 2,552GRT、31 万 9,430DWT の大型原油タンカー（VLCC）で、ソマリアの海賊にハイジャックされた船舶では、これまでで最大であった。該船は空荷の場合は乾舷が 33 メートルだが、ハイジャック時には 200 万バレルの原油を積載しており、乾舷が 10 メートル以下になっていた。

4. 人的被害と使用武器の特徴

表 4 に示したように、乗組員の人的被害状況について見れば、2009 年第 1 四半期までの人的被害の総数は 199 人で、2008 年同期の 33 人に比して 6 倍増である。その内、178 人が人質事案で、ほとんどがアデン湾・ソマリアでの人質事案である。この海域のハイジャック事案が、船と乗組員の解放と引き替えに身代金を要求する特性を反映している。

使用武器から見ても、表 4 に見るように、2009 年第 1 四半期までの全発生件数 102 件の内、銃器が使用された事案が 59 件であった。これを発生場所から見れば、アデン湾／紅海の 31 件が最も多く、次いでソマリアが 18 件であった。ここでも、ロケット推進擲弾筒を含む自動火器を装備する、この海域の海賊の特性が見られる。

表4：2009年第1四半期までの発生海域毎の乗組員の人的被害状況

	Hostage	Threatened	Assaulted	Injured	Killed	Kidnap
マラッカ海峡						2
マレーシア		2				
タイ				1	1	
ブラジル					1	
ペルー	2	1	2	1		
アデン湾	102			2		
ケニア						3
ナイジェリア	17			3		
ソマリア	55			2		
タンザニア	2					
小計	178	3	2	9	2	5

出典：U.S. Department of Transportation, Maritime Administration, List of Ships Hijacked から作成。

表5：2009年第1四半期までの主な襲撃事案の発生場所と使用武器

	銃器	ナイフ	その他の武器	情報なし
インドネシア				1
マラッカ海峡	1			
マレーシア		1		1
タイ		1		
ベトナム		1		3
バングラデシュ				1
インド		1		2
アデン湾／紅海*	31			10
ケニア	1			
ソマリア	18			2
ナイジェリア	7			
タンザニア		1		1
インド洋				1
小計**	59	14		29
第1四半期までの合計**	102			

出典：2009年第1四半期報告書12ページの表10から作成。

注*：紅海1件、使用武器情報なし。 **：件数は報告書の全ての対象海域を含む。

5. 2009年4月までのソマリア海賊襲撃事案の特徴

(1) 報告書によれば、IMBの海賊通報センター（PRC）は、2009年第1四半期において、紅海（ソマリアの海賊ではない）を含むアデン湾、ソマリア沖での海賊による襲撃について、総計61件の通報を受けた。人質となった船員の数は157人であった。また、襲撃海域は、ソマリアの東

部及び南部海域で 20 件、紅海の 1 件を含むアデン湾で 41 件、総計 61 件の内、ハイジャックに成功したのは 9 件であった。Office of Naval Intelligence Civil Maritime Analysis Department (U.S. Navy) の Worldwide Threat to Shipping Mariner Warning Information などの各種資料を総合すれば、この海域における 4 月の襲撃事案は、約 40 件で、その内ハイジャックに成功した件数は 14 件であった。(別添資料参照)

- (2) 2009 年 3 月頃から、各国海軍戦闘艦が展開していない、ケニア沿岸沖に至るソマリア東岸沖での襲撃事案が増える傾向にある。報告書は、各国の戦闘艦がアデン湾に展開し、この海域を航行する各船の船長が海賊予防対策を強化するにつれ、襲撃事案自体はそれほど減少していないが、この海域でのハイジャック成功事案は大幅に低下してきた、と指摘している。
- (3) 他方で、報告書も指摘するように、ソマリアの海賊は、ますます大胆な行動を取るようになってきており、ソマリア東岸のインド洋に襲撃海域が拡散してきている。報告書によれば、ソマリア東岸沖では、第 1 四半期に 20 件の襲撃事案があり、その内 4 件がハイジャック事案であった。前出の Worldwide Threat to Shipping Mariner Warning Information などによれば、4 月の襲撃件数約 40 件中、インド洋側では 21 件であり、ハイジャック事案 14 件中、6 件に達している。しかも、襲撃海域も、ケニア沖、タンザニア沖、セイシェル沖、更にはマダガスカル沖にまで拡散しており、幾つかの事案は沿岸から 600 カイリ近く離れた海域で発生している。ソマリアの海賊は、アデン湾での各国海軍の哨戒活動から逃れて、セイシェル近海での活動を活発化させており、数グループの海賊が、セイシェル最大のマヘー島の北方 200 カイリ弱の海域で活動していると言われる。(indian express, April 20, 2009) 従って、ソマリアの海賊は、アデン湾とソマリア東岸沖のインド洋の 2 つの海域で襲撃を繰り返しており、しかもロケット推進擲弾筒を含む自動火器を装備し、非常に危険になっている、と報告書は警告している。
- こうした状況から、バーレーンの連合海軍司令部は 4 月 7 日、ソマリア東岸沖の襲撃事案の増大について、警戒するよう、警告メッセージを発した。(Combined Maritime Forces, Press Release, 058-09, April 7, 2009) また、米国の Maritime Liaison Office (MARLO) は、セイシェル付近の海域を航行する船舶に警告すると共に、ソマリア沖から 600 カイリ以上離れて航行するよう勧告している。(Fairplay Daily News, April 12, 2009) また、ソマリアの海賊行動がアデン湾からインド洋に南下していることに伴い、インド海軍は、セイシェルの要請を受けて、海軍調査艦を派遣して、同国近海で対海賊哨戒活動を開始した。(indian express, April 20, 2009)
- (4) 海賊は「母船」を使用していると見られ、沿岸域から遠く離れた海域で「母船」から小型高速ボートを発進させて、通航する船舶を襲撃している。IMB は、EU の Maritime Security Centre, Horn of Africa (MSCHOA) と協力して、ソマリアの港湾に寄港しない船舶は、ソマリア沿岸からできるだけ離れて、可能なら 600 カイリ以上離れて航行するよう、勧告している。

参考1：アデン湾・ソマリア沖への海軍戦闘艦派遣国

各種報道資料を総合すれば、2009年4月末時点での海軍戦闘艦派遣国の状況は以下の通り。

① EU: Operation “Atalanta”

スペイン、ドイツ、フランス、ギリシャ、英国、イタリア、スウェーデン

② NATO: Operation “Allied Protector”

NATO Standing Maritime Group 1：ポルトガル、カナダ、オランダ、スペイン、米国（作戦期間は6月20日まで）

③ Combined Task Force 150: Operation Enduring Freedom (OEF-MIC)

フランス、米国、英国、パキスタン、（海自はインド洋で補給支援）

④ Combined Task Force 151 (anti-piracy operation)

米国、トルコ、シンガポール、オーストラリア、韓国

⑤ その他の派遣国

インド、中国、マレーシア、日本、ロシア、フランス、イラン

参考2：以下は2008年1月から2009年3月27日までの、アデン湾とソマリア東岸沖における月間の襲撃事案の状況を示した、NATO Shipping Centreのブリーフィング・スライドである。

Source: NATO Shipping Centre, Briefing Slide, March 27, 2009

別添：2009年4月末までのアデン湾・ソマリア沖のハイジャック事案の状況

海洋政策研究財団作成

船名	発生日	解放日 (拘束日数)	乗組員 (死亡)	船舶のタイプ	旗国
<i>Blue Star</i> (A)	1.1	3.4 (62)	28	General Cargo	St Kitts & Nevis
<i>Sea Princess II</i> (A)	1.2	4.26 (116)	15	Product Tanker	Panama
<i>Victoria Four</i> (K)	1.8	1.8 (Boarded)		Fishing Vessel	Tanzania
<i>Longchamp</i> (A)	1.29	3.28 (58)	13	LPG Tanker	Bahamas
<i>Safmarine Zambezi</i> (T)	2.14	2.14 (Boarded)		Fishing Vessel	Liberia
<i>Saldanha</i> (A)	2.22	4.25 (62)	22	Bulk Carrier	Malta
<i>Serenity*</i> (Sy)	3.15 (推測)		2	Yacht (Catamaran)	Seychelles
<i>Titan</i> (A)	3.19	4.16 (28)	24	Bulk Carrier	St. Vincent & Grenadines
<i>Al Rafiquei</i> (S)	3.21	3.21 (Boarded)	16	Cargo Dhow	India
<i>Nipayia</i> (S)	3.25		19	Chemical Tanker	Panama
<i>Bow Asir</i> (S)	3.26	4.10 (15)	27	Chemical Tanker	Bahamas
<i>Indian Ocean Explorer</i> (Sy)**	3.27		7	Oceanographic Research Cruiser	Seychelles
<i>Shehenshah-E-Madina</i> (A)	3.30	4.4 (4)	18	Cargo Dhow	India
<i>Tanit</i> (Sy) ***	4.4	4.10 (6)	5 (1)	Yacht	France
<i>Hansa Stavanger</i> (K)	4.4		24	Container Ship	German
<i>Al Ghaith</i> (S)	4.5	4.7 (2)	7	Tugboat	Yemen
<i>Win Far 161</i> (Sy)	4.6		30	Fishing Vessel	Taiwan
<i>Malaspina Castle</i> (A)	4.6	5.9 (33)	24	Bulk Carrier	Panama
<i>Maersk Alabama</i> (S) *****	4.8	4.8 (Boarded)	20	Container Ship	United States
<i>Shгаа-Al-Madhi</i> (A)	4.9		13	Fishing Vessel	Sudan
<i>Mom taz 1</i> (A)	4.10		18	Fishing Vessel	Egypt
<i>Armed Samarah</i> (A)	4.10		16	Fishing Vessel	Egypt
<i>Baccaneer with 2</i> <i>Barges</i> (A)	4.11		16	Tug & Barge	Italy
<i>Irene E. M.</i> (A)	4.14		22	Bulk Carrier	St. Vincent & Grenadines
<i>Sea Horse</i> (S)	4.14	4.17 (3)		General Cargo	Togo

船名	発生日	解放日 (拘束日数)	乗組員 (死亡)	船舶のタイプ	旗国
<i>Pompei</i> (S)	4.18		10	General Cargo	Belgium
<i>Patriot</i> (A)	4.25		17	Grain Carrier	Malta
<i>Qana</i> (A) *****	4.26	4.27 (1)	23	Oil Tanker	Yemen

出典：“Piracy And Armed Robbery Against Ships: Report for the Period, 1 January - 31 March 2009,” ICC International Maritime Bureau, April 20, 2009, pp.40-42.、Ecottera International、Office of Naval Intelligence Civil Maritime Analysis Department Worldwide Threat to Shipping Mariner Warning Information (U.S. Navy)、NATO Shipping Centre, Briefing Slide、及びその他の報道資料から作成。空欄箇所は不明。

注：上記表中の (A) はアデン湾、(S) はソマリア沖、(Sy) はセイシェル沖、(K) はケニア沖、(T) はタンザニア沖でのハイジャック事案を示す。

備考*：該船はマダガスカルに向け 2 月 28 日にセイシェルを出港したが、消息不明であった。3 月 25 日、セイシェル国営放送がソマリアの海賊にハイジャックされたことを確認した。(Shiptalk, March 26, 2009) 3 月 28 日付けの NATO Shipping Centre のブリーフィング・スライドによれば、該船は 3 月 15 日にハイジャックされたと推測している。

**：該船は、3 月 28 日にセイシエルの Assumption 島沖でハイジャックされた。3 月に 2 隻のセイシェル籍船がハイジャックされたことから、セイシェルは 4 月 2 日、群島水域の外側に展開する戦力を強化し、沿岸警備隊による警備を強化した。(Reuters, April 2, 2009)

***：このヨットには、2 組のフランス人夫婦と子供 1 人が乗っていた。フランス軍特殊部隊は 4 月 10 日、救出作戦を実行し、子供を含む 4 人を救出したが、1 人が死亡した。フランス軍は、海賊 2 人を殺し、3 人を拘束した。フランス軍の武力救出作戦は、今回が 3 度目である。(BBC News, April 10, 2009)

****：該船は、4 人の海賊に乗り込まれたが、乗組員がその内 1 人を捕まえた。海賊は船長を人質に取り、該船の救命ボートに連れ去った。乗組員が人質交換を提案し、海賊を解放したが、海賊は船長を人質に取ったまま、逃亡した。(The Washington Post, April 8, 2009) 米海軍特殊部隊、SEAL チームは 4 月 12 日、救出作戦を実施し、船長を救出した。その際、海賊 3 人が射殺された。1 人は拘束された。(American Forces Press Service, April 12, 2009)

*****：イエメン軍特殊部隊は 27 日、該船を解放した。該船はハイジャック時、石油を積んでいなかった。特殊部隊は戦闘で、5 人の海賊を殺し、少なくとも 9 人を拘束した。(Fairplay Daily News, April 27, 2009)

リンク先

AFP	http://www.afp.com/home/
AP	http://www.ap.org/
Aquatours HP	http://www.aquatours.com/
BBC News	http://www.news.bbc.co.uk/
CNN	http://edition.cnn.com/
DoD News	http://www.defenselink.mil/
Ecoterra International	http://www.businesspatrol.com/country-links/ecoterra-international,9870.html
Fairplay Daily News	http://www.fairplay.co.uk/
gCaptain	http://gcaptain.com/
IMB	http://www.icc-ccs.org/index.php?option=com_content&view=article&id=27&Itemid=16
indian express	http://www.indianexpress.com/
iol	http://www.int.iol.co.za/
Itar-Tass	http://www.itar-tass.com/eng/
Mail Online	http://www.dailymail.co.uk/home/index.html
MARINE LOG	http://www.marinelog.com/
Maritime Safety Information	http://www.nga.mil/portal/site/maritime/?epi_menuItemID=3e37041ec7a4546e36890127d32020a0
Maritime Global Net	http://www.mgn.com/
Maritime Security Centre, Horn of Africa	http://www.mschoa.org/Default.aspx
NATO Shipping Centre	http://www.shipping.nato.int/
Reuters	http://www.reuters.com/
RIA Novosti	http://en.rian.ru/
Saba Net	http://www.sabanews.net/en/
Shiptalk	http://www.shiptalk.com/
The China Post	http://www.chinapost.com.tw/
The Guardian	http://www.guardian.co.uk/
The Jerusalem Post	http://www.jpost.com/
The Korea Times	http://www.koreatimes.co.kr/www/index.asp
The Manila Times	http://www.manilatimes.net/
The New York Times	http://www.nytimes.com/
The Straits Times	http://www.straitstimes.com/
The Washington Post	http://www.washingtonpost.com/
The White House	http://www.whitehouse.gov/
Trade Winds	http://www.tradewinds.no/
UPI	http://www.upi.com/
U.S. Naval Forces Central Command	http://www.cusnc.navy.mil/
Xinhua (新華社)	http://www.xinhuanet.com/english/
Yonhap News	http://english.yonhapnews.co.kr/
AP	http://www.ap.org/
Aquatours HP	http://www.aquatours.com/

海洋政策研究財団

〒105-0001 東京都港区虎ノ門一丁目15番16号 海洋船舶ビル3F
TEL.03-3502-1828 FAX.03-3502-2033

((財)シップ・アンド・オーシャン財団は、標記名称にて活動しています)